

認知症普及啓発イベント①

11月9日（日）、八戸市のユートリーにて、認知症普及啓発イベント「認知症なんもなんも」を開催しました。今回のコラムでは、ステージイベントの模様や、認知症希望大使に任命されたお二人からのコメントについてお届けします。

じゅんちゃん一座 公演

じゅんちゃん一座は、方言とユーモアあふれる寸劇で認知症の普及啓発活動を行っているボランティア団体です。

十和田市立中央病院 メンタルヘルス科 診療部長の竹内 淳子先生を座長とし、様々な職種のメンバーで構成されています。

今回のイベントでは、竹内先生による「みんなで学ぼう認知症！～笑顔で共に生きるまちへ～」をテーマとした講義のほか、もの盗られ妄想をとり上げた寸劇も披露されました。

来場された方々は、それぞれ真剣な様子で講義や寸劇に見入っていました。



認知症希望大使 任命式

これまで認知症ピアソーターとして県内各地で講演や交流等の活動をしてきた、佐々木 静さんと西塚 美恵子さんのお二人を、「あおもり認知症希望大使」として任命しました。

お二人には認知症ピアソーターの時から、県内各地での講演や広報への出演など、希望大使と同じような役割を担っていただいておりましたが、今後ますます活躍の機会が増えることが期待されます。引き続き、希望大使となったお二人への応援をよろしくお願ひします。



手前左が西塚さん、右が佐々木さん

あおもり認知症希望大使からのコメント

佐々木 静さん(50代、八戸市在住)

「認知症にならないためにどうしたら良いのか」「認知症になってしまったらどうしよう」と不安になることもあるでしょう。ですが、たとえ認知症になっても、周りのサポートがあるので、安心できる地域・青森県であることを知ってもらえるようお話しつければと思っています。

どんな自分になっても、「人生捨てたもんじゃない!!」と思う自分でいたいと思います。

西塚 美恵子さん(60代、南部町在住)

「認知症希望大使と任命されても、今までと同じ活動ですよ」とのコトバに安心しています。

2019年に認知症が発覚してから支援員につながるまでの3年間、長かった気がしますが、会の発足、ピアソーター活動は共に周りの人達に支えられてのこと。私の体験は無駄ではなかった。苦しんだ先の共に生きること、そして希望を持っていくことに、微力ですがお役に立てればと思っています。